

平成29年度 第3回宮城県図書館協議会 会議録

1 日 時 : 平成30年3月14日(水) 午前10時から正午まで

場 所 : 宮城県図書館 研修室

2 出席者 : 佐藤 義 則 会長  
柴 崎 悦 子 副会長  
鵜 飼 信 好 委員  
金 澤 寛 子 委員  
早 坂 信 子 委員  
平 塚 美 保 委員  
村 上 佳 子 委員

3 事務局等出席者の職氏名

館 長	高 橋 総一郎
副館長	佐 藤 明 寛
企画管理部長	浅 野 恒 志
資料奉仕部長	石 川 俊 樹
企画管理部副参事兼次長(総括担当)	谷 津 茂 司
資料奉仕部次長(総括担当)	岩 間 美 樹
総務班次長(班長)	高 橋 弘 道
企画協力班主幹(班長)	伊 藤 亮 一
一般図書班次長(班長)	千 葉 美 紀
児童・視聴覚班次長(班長)	佐 藤 耕 造
資料情報班主幹(班長)	安 藤 祐 子

・オブザーバー

生涯学習課生涯学習振興班課長補佐(班長) 山 田 賀 子

4 傍聴について

○ 谷津副参事

傍聴希望者がいないことを確認。

5 開会

○ 谷津副参事

本日委員7人の出席により定足数を満たし会議が成立した旨の報告をし、開会を宣言。

6 会長挨拶

7 館長挨拶

8 配布資料の確認及び日程説明（谷津副参事）

<説明関係資料>

- ① 第3期宮城県図書館振興基本計画（最終案） . . . . . （以下、資料1）
- ② 第3期宮城県図書館振興基本計画（案）に対する意見提出手続（パブリックコメント）  
の結果と御意見・御提言に対する宮城県図書館の考え方  
. . . . . （以下、資料2）
- ③ 宮城県図書館振興基本計画の策定に係るスケジュール  
. . . . . （以下、資料3）
- ④ 宮城県図書館振興基本計画（平成24年度～平成29年度）最終評価  
. . . . . （以下、資料4）
- ⑤ 平成29年度の利用状況等概要 . . . . . （以下、資料5）
- ⑥ 平成29年度主要事業実施概要 . . . . . （以下、資料6）
- ⑦ 平成30年度事業実施計画概要 . . . . . （以下、資料7）

<配布関係資料>

- ① ことばのうみ （No.59）
- ② 企画展「東日本大震災文庫展Ⅷ 震災ボランティアを知る」 チラシ

9 議長選出

図書館協議会条例第6条第1項により、会長である佐藤会長（以下、議長）を選出

10 会議録署名委員の指名

議長が金澤委員を指名

11 議事

○ 議長

それでは議事に入ります。はじめに「第3期宮城県図書館振興基本計画（最終案）について」事務局から説明願います。

○ 浅野部長

「第3期宮城県図書館振興基本計画（最終案）」について説明いたします（以下、資料1～4により説明）。

○ 佐藤会長

ただいまの説明について、ご質問・ご意見等ございましたらお願いします。

○ 鵜飼委員

資料をいただいてから自分で準備する、時間が不足しておりまして大変恐縮なのですが、ただいまの説明の中で、6ページに書いてある、資料1の6ページなんです。具体的に言ってもどのように変えました。というような具体的なお説明がなかったので、質問なんですけれど、マルボツの3つ目ですが、4行目以降でしょうか？「当館で活動するボランティアは固定化する傾向が見られるため」というふうにありましたが、これ、以前もありましたか？これは具体的に、どういうことを指しているのか、と思ってお伺いしたいのですが。

○ 浅野部長

前回もこの記載についてはございました。

○ 鵜飼委員

この記載はありましたか、そうですか。それで、具体的にはどういう現象というか。

○ 浅野部長

こちらに、登録されているボランティアの方々が固定されているという形のものと、読み聞かせ等のボランティアさんに毎週のようにやっていただいておりますけども、活動する団体さんが同じところという形になっておりまして、それも含め、固定化しているという表記にさせていただいたところでございます。

○ 鵜飼委員

これが要するに問題だという認識で書いている訳ですか？

○ 浅野部長

問題ではなくて、活動自体が同じ方ばかりになっておりますので、こちらとしてはもう少し広げていきたいという考えで、こういう記載になったところでございます。

○ 鵜飼委員

以前から言っているのですが、いわゆる場の提供という意味であれば、そういうようなことが言えるだろうと思いますね。おそらくこれは、前館長さんの時期に、いわゆるスペース貸し、というか開放しますよ、ということで広く県内のボランティアさん方を募集して、今現在土曜日でしょうか。開放した形やっている訳です。それを、募集をしてやって

おられる訳ですよ。だいが盛況になってきていますけれども、そういう場所を開放すると言っているとおり、そういうことをしましょうよ、というようなことで、それはそれとしていい訳ですが、その中で固定化しているというようなことなのか、そういう傾向なのかということと、それであれば、当初の意図と違うからちょっと変えていこうか、というようなことになる訳です。もう一方では、これにも記載してありますが、いわゆる子どもの読書推進のためのきっかけづくりという意味でのボランティア活動という面もあるわけですよ。そうすると、ある程度かなり吟味した活動をしているというボランティアの中にはあるわけで、そうすると固定化もやむなきということも出てくるのです。だから、この「固定化する傾向が見られる」ということを改めて見ると、これが悪であるというふうに見えるので、はてな、というそういう思いを感じたものですから、ここの表現はいかなものかなと思った訳です。仮に、場の提供のところで、固定化する傾向がまずいと、というふうに思われるのであれば、これは具体的に、この記載とは関係ありませんが、募集の方法を変えとかですね、そういった方法で改善されていくのではないかなと思います。この中で要するに、場の提供をメインとして考えるのか、そうじゃなくて、子どもに対するいわゆる読書推進のためのきっかけづくりという、そういう両面を睨んだことにしておかないとうまくないのではないだろうか、というふうなことを思ったものですから、ちょっと引かかるなあと思いました。この「固定化する傾向が見られる、当館では」というところがね。

#### ○ 早坂委員

今のご説明ですけれども、中間案では、登録者は年々減少傾向にあるためと書いてあって、今回新たに固定化という言葉に変更されたように見受けられるのですけれども、そこは疑問に思うところです。減少だったら問題と思うのですけれどもね。また、宮城県図書館ボランティア登録者数から活動者数というふうに、名称が変わり、中間案から数値も微妙に変わっています。確かに、中間案の表を見ますとね、だんだんと減っているのが、歴然と見えるような表になっているのですけど、今回の表になりますと、そうはなってないようです。

#### ○ 館長

はい、固定化というのは前回の文案でもお示ししたのですが、やはり固定化ということとなんとなく活動の場が非常に限定的になってしまっていて、よくないイメージがあるということですね。固定化という言葉の見直しを考えたいと思うのですが、申し上げたいのはボランティアの方々が集めようと思っても集まって来ていただけなくて、同じような方々があまり前回と変わらないようなことをしがちな傾向になっているというということを、これで言っておりますので、必ずしも児童図書だけに限らず本棚の整理といったボランティアの方々も含めての表現ではあるのですが、固定化という言葉が非常に悪い意味に取られがち

であれば、それは見直したいと考えておりますが、いかがでしょうか。

○ 鵜飼委員

そうですね。広く機会を提供するということが言われていれば、特段固定化うんぬんということがなくても、話としては通じるんじゃないかというふうに思うのですが。

○ 館長

ボランティアの活動・方々が、活発化しないというのは、「…活発化しない」というのもあまり良い意味ではないですね。なかなか広がりが見られないような形ですけどね。

○ 鵜飼委員

要するに、広く県民の方々にボランティア活動をしてもらいたいから、こちらからもっと広く呼び掛けていこう、そういう事ならば、別にその辺道理が通る訳ですよ。

○ 館長

申し上げたかったのは、現状の分析から課題として抽出した上で、それに対する対応策を検討したいという流れの文章なものですから、そこで多少課題の前提となる現状の認識として、そのような傾向があるのではないかという問題意識を図っていくところではあります。ただし、固定化という言葉に、これまでの活動を否定するような意味合いがもし感じられるとすれば、もう一度ワーキング等において、柔らかな表現に、ここで即断できませんが、考えたいと思います。いかがでしょうか。

○ 鵜飼委員

そうですか。はい。

○ 佐藤会長

ただ、問題は早坂委員からご指摘があったように、下のグラフのところの見出しが活動者数というふうに、変わったということにあって、要するに前のグラフでは減少していたのが、減少しなくなったので、固定化という表現をお使いになられたという風に思われます。ですから、まずはこのグラフの方のキャプションを変えられたことの説明をいただければと思います。それが、固定化うんぬんの表現をどうするかということに繋がるかと思っておりますので。いかがでしょうか。

○ 浅野部長

こちらのグラフにつきましては、前回のご意見として、ここにある読み聞かせ等のボランティア団体さんの活動も含めて、図書館として考えた方がいいのではというご意見があ

りましたので、そのご意見に基づきまして、読み聞かせ等の団体で活動している方の数値をここに含めたことにしてございます。その関係上、数値が前のボランティアの登録数の減少からその団体の活動者を含めたことによってこういった表になったところでございます。

○ 村上委員

読み聞かせのボランティアさんは登録制じゃないということですよね？だから、登録者数にすると、合わなくなってしまうということかな、と思いました。

○ 佐藤会長

そういうことであれば、固定化という表現の問題だけのことかと思うのですが、現在ボランティアに参加されている方々に対して、固定化というのがネガティブなイメージで、受け取られかねないとも思いますので、このところの表現については、ご配慮いただけたらいいのではないかなと思うんですが。なかなかよい変更案が浮かばない。

○ 鵜飼委員

固定化するというネガティブな言い方よりは、実績はもっと増やすべきではある、という分析結果であればいいのではないのですか。

○ 村上委員

例えば、長らく活動をしているボランティアさんに加えて幅広くというような感じにしていいただければいいかもしれません。

○ 館長

それでは、今後より一層ボランティアさん方の活動を促進するためにやっていきます、という前向きな表現でいかがでしょうか。

○ 各委員

はい。

○ 館長

そのような形にさせていただきます。

○ 佐藤会長

そのほか、いかがでしょうか。

○ 早坂委員

学校図書館を、小中と高校に分けて違ったやり方で支援するという先ほどのご説明で思ったのですけれども、やはり少なくとも、県立高校の図書室について、もう少しきちんとした情報ネットワークが、構築されるべきではないでしょうか。県の書誌のデータベースを利用して、県立高等学校のデータセンターとしての役割は、簡単に担えるはずだと思います。別に学校図書館用のデータベースを持つにしても、コピーすればできる訳ですから、そういう動きは多分図書館だけでも出来ますし、あるいは、教育支援センターのような施設でも、考えるべきだとは思いますが、両者が早く一緒に協議を始めて、やっていけたらいいのではないかな、というふうに思うのです。そういったことも含めての、この表現ということによろしいのでしょうか？

○ 館長

これはですね、提案者が高等学校の図書の司書さんからの提案でございました。割と内部情報に詳しい方の提案で、具体性も提案にありましたので、至らない部分もあるかと思いますが、総合教育センター等との情報連携、それから現場のニーズ調査、そういったところから先ず隗より始めよ、ではないのですけれども、そういうところからはじめていくといったことで、こういった書き方になったものでございます。

○ 早坂委員

ぜひ、一步前に進んでほしいなと思います。

○ 佐藤会長

今日は残念ながら、遠藤先生がご出席できないということですので、本来はコメントいただきたいところなのですが、次回以降、県の高等学校図書館研究会の会長さんがお見えになる機会があると思いますので、その際に引き継いでいただければと思います。その他、ございませんでしょうか。

○ 早坂委員

今朝こちらのほうに久々に来てみたら、やはり平日ということで、もっぱら高齢の男性の方が多く、なかなか活気を呈しているという感じではないのですね。やっぱり、この地域的なことは乗り越えられない問題ですので、いわゆる仙台市の真ん中にあるような施設とは、全く違った雰囲気ではありますけれども、そうすると、やはりその地の利を克服するためには、ネットワークの整備ということになると思うのですね。古典籍に関しましては、目録のデータ整備が出来ているけれども、その他の資料については、まだまだ整備できていないというようなお話があったと思うのですが、その時に、著作権法の考えを考慮しながら目録の整備、とありますが、目録に関しては著作権は及ばないと思いますので、

まだまだ未整備の状態のものがあるとしたら、ぜひ、そういうことは考えずに、まずはしっかりと目録にあげてネットワーク情報データベースにちゃんと公開していくべきだと思います。

○ 佐藤会長

具体的には何ページですか？

○ 早坂委員

最終評価の表の問題点・改善点・見直点というところなのですが、横長の資料の2ページ目の右上ですね。「課題等及び改善点・見直し点」、和古書以外の資料については、著作権処理の確認等を行いつつ、目録の作成を進める必要がある。台帳登載資料の目録電子化の推進、というところですね。

○ 佐藤会長

著作権は関係ないですね。目録に関しては、著作権は発生しないというのが、一般的な理解となっておりますので、ここの表現についてよくわからないですね。

○ 浅野部長

すみません、その点につきましては、表現の確認をさせていただいて、ここの表現については改めたいと思います。

○ 佐藤会長

平成24年度～平成29年度の最終評価について、内容については本来6月の話なのですよね。どうしてもまだ年度が終了していないと、先ほどご説明あったように。ですから、項目等の参考にさせていただいて、大きな問題点があれば、ご指摘いただくということで。軽微な点については、先ほどの主題なものが議題である基本計画の最終案の方に絞っていただければありがたいです。

○ 早坂委員

先ほども言ったように、不便なところに県立図書館があるということは、どうしてもネットワークで積極的に公開したり、利用を呼びかけたり、そういったことがますます大事になっていくだろうというふうに思うのです。その時に、基本計画の中にありますように、図書館貴重資料の保存・修復事業には複製の作成、あるいは、データベースとしての公開とか。あるいは、検索性の利便性の向上といったことに、もっと神経を注がないと、この地の不利は克服できないというふうに懸念しているのです。ここで、いらっしゃい、いらっしゃいと呼びかけても、いろいろイベントなど必要かと思いますが、あまり効果的で



はない面がどうしてもあると思うのですね。ですから、余計に検索性の利便性というのは、みんな必死になって頑張って、いろんな所のデータベースを参考にし学習しながら、より良いものに仕上げていく必要があるのではないかと思います。

○ 浅野部長

それにつきましては、28ページの15項に施策の方向性として打ち出しをしておりますので、その中の充実を図る中で対応していきたいとは考えてございます。

○ 佐藤会長

そのほか、いかがでしょうか。

○ 早坂委員

よろしいですか。資料5なのですが、「蔵書等状況」という表を見て思ったのですけれども、増加傾向が見てとれる表になって。その中で、外国語資料というのが、前年度が25,001点、29年度が25,003点で増加数が2点。これは、利用人数がそれほどないから全く購入していないということなのですか。

○ 石川部長

ニーズの把握をどのような形とするのか、という話になると思うのですけれども、一般の利用者の方々からリクエスト等を寄せられる場合もあり、それについて本館の収集方針と照らし合わせるということもありますが、なかなか外国語資料についてのリクエストという例は私が来てからの2年間はない状況でございますし、また外国語の資料というだけですと非常に高価な部分になってくるものも見受けられましたので、まずは、それ以外の利用ニーズの高そうなものを優先させているというのが現状でございます。そのため、手をつけられていないというのも実状ではありますね。

○ 早坂委員

リクエストというものを、基準にしているのかどうなのかということですね。やはり、貸出冊数が極端に少ないといったことで計るべきだと思うのですけれども、かつて、この図書館にはかなり外国の方の利用がありました。また、外国書もたくさん寄贈された。それで、これだけの冊数になっています。この地域全体には住んでいる外国の方は多いはずですね。外国の企業がありますしね。そういう意味で、あえてまったく購入しない、ということで他のところに主眼を向けているのか、どうなのか。ここをお聞きしたかったのですね。私の在勤時代などは、近くに外国系の幼稚園などもあって、その先生方とか、それからサッカー場もありましたので、サッカーの選手たちですね、コロンビアの方とか、ブラジル、ポルトガルの方とか。いろんな外国人の方が、常時いろいろな方がいらした思

うのですが、そういうことがぱったりなくなってしまったのかな、ということが気になりました。

○ 石川部長

現在の状況で、かつての状況というのは存じ上げないのですが、外国人の方としてよっちゅう当館の資料を利用しに来ていただけているということはほとんど無いような状態ですね。たまにいらっしゃる姿を見かけるといようなことはあるのですが、それも何かの紹介で寄ってきましたというように感じて、当館の資料を特に探して熱心に通われている方というのは、ここはほとんどいらっしゃらないというところでございます。

○ 佐藤会長

どうなのでしょうね、やはり資料がないと来なくなるというのはそのとおりなので、多分ニーズはあるのだと思うのですよ。非常に外国籍の方はたくさん仙台市、あるいは富谷にしても住んでいる方はたくさんいらっしゃるはずなので、そういう面では、ニーズはないとは言えないと思うのですね。そういう部分で、ある程度試験的に少し増やしてみるとか、こういう部分を例えば 100 冊なり、どういう需要があるのか、というアナウンスを含めて、検討されるってことも、必要なのでないかなというふうに思うわけですが。なかなか、仙台市とかどうなのか分からないですけど、柴崎さんとかいかがですか。そういった外国語の資料とか。

○ 柴崎副会長

名取市図書館について言えば、お恥ずかしいですが、そんなにはございません。震災後にたくさん寄贈されたものがありますので、これから新しい図書館に向けて、登録作業を進めていこうと思っているのですが、でも、外国の方の利用がないわけではないのですね。年に何回かは、必ず外国の方がお見えになって、日本語の学習の資料を求めていかれたりもするので、外国人へのサービスも考えなくてはいけないと思っていますところであります。

○ 早坂委員

日本で発行された、外国人が日本語を学ぶための外国資料もあります。ポルトガル語しか分からない人で日本語も全く分からなくて、孤立して困っているのだけれども、何か日本語を学ぶテキストはないだろうか、ということでもかなり揃えたのですね。ですから、この図書館には、スペイン語の図書とか雑誌とかたくさんあります。それはなぜかというと、その当時、スペイン語しか分からない人たちが、社会の中で孤立している人のために、なんとか応えようとして集めたものなのですね。それから当然、レファレンスのカウンターの職員は、外国人が英語しか分からない場合に、問い合わせがあったときに、応えをする

ための勉強会みたいなものをやっていた時代もありました。当然、日本人もかなりの教育費をかけながら、外国語を学んでいくわけです。高校生だって中学生だって、英語は必修のようになっているわけですから。そういう人たちのためにも、英語で書いた絵本だとか、そういう物をふんだんに目の近くに用意していれば、学習のきっかけにはなるという考えがあったんですね。それで、これだけ揃えてきたと思うんですが、やはり、ただ誰か来るまで待っているだけでは、なかなか難しいような気がします。

○ 館長

国際交流関係の団体等の方にも取材して、それはサービス向上の一環として検討させていただきたいと思います。

○ 佐藤会長

よろしくお願いいたします。そのほか、何かございますか。

○ 村上委員

さきほどネットワークの発信のことで拝見いたしまして、やはり、市町村のサービスを前面に出してくださったこととか、マイネットの充実ということをととても書いてくださっているの、地の利の話ではないですけども、とてもいいことだなと見ておりました。それで、資料5の中で、今、全ての市町村がマイネットに加入されているということで、31から35、15公民館ということで、私どもは毎日のように、マイネットにより情報を得て、サービスさせていただいております。先ほど、県立図書館はそれに加入というようなことを考えていうことで可能性はどうなのかな、と。あれが繋がっていると、結構、学校の先生も、図書室の方もその場にいないことも、多分授業もあったりするので、マイネットが繋がっていると、ちょっとした問い合わせなどもできるのかなと思って、そんなことをお考えいただくといいのかなと思いました。これから、マイネットの更新を予定されているということで、担当者会議でもいろいろ情報、こんな改善点を話し合ったという経緯をスタッフから聞いておりますので、その辺期待したいというふうに思っております。

○ 佐藤会長

すみません、マイネットというのはシステムの話をされているのですかね？あるいは、運用全般の相互利用を含めた仕組みのことを、この資料の中で仰っているのかということが、疑問になりまして。

○ 村上委員

両方を踏まえての話なのですかね。

○ 佐藤会長

その辺は、2つの意味が1つになって、使われているように思われるので、時々、どちらのこと言っているのだらうと、分からなくなる時があるものですから。

○ 館長

何か補足はありますか？伊藤班長。

○ 伊藤班長

はい、それでは今お話いただきました宮城県図書館情報ネットワークシステム、いわゆるマイネットという各委員の方からご意見いただいた件でございますが、かつては県立学校の試験的に数校だけ抽出してマイネットを接続した事案が10年ほど前にございまして、それを本格化するか否かというところで、最終的に断念したという経緯があり、今のところ、現段階では接続されていない状況ではございます。ただ、先ほど部長の浅野のほうから説明ありました、今後学校図書館との連携というのが新計画の課題となっておりますので、そのマイネットの活用についても含めて今後ニーズ調査を行うところの段階からより利便性の高いシステム更新ということを年内も検討中でございますので、早坂委員からご指摘のありました目録調査、そういったところでいち学校図書館が大いに県図書館を利用するに当たり、そういった要望があれば、それを含めて改善の方向で今後検討していきたいと思っております。

○ 館長

補足ですが、普通のネット環境では蔵書状況は見られるとは思いますが、その行政情報としてのマイネットという面だと多少俯瞰的な項目での連携があり得るのかもしれないですね。どんな本があるかという情報は、普通のPCで見られますので、その辺の連携はとれているとは思いますが、それをどれくらいの幅を広げていくかという観点で、今、伊藤が申したようなことも今後のシステム更新の中で検討課題に入ってくると思います。

○ 村上委員

マイネットは小学校でやりとりできますよね。

○ 館長

はい、そうです。

○ 村上委員

たとえば、今週の末に柴田町の図書館でやられる糸賀先生がくる講演会でありますとか、県内の図書館員が知っている情報をマイネットに掲載できるといいなと思いますので、よ

ろしくお願いいたします。

○ 館長

貴重なご意見ありがとうございました。

○ 佐藤会長

すいません、マイネットっていうのは要するにシステムのことだということなのですね。そうすると、この更新を予定されているということですが、具体的にどういう、いつ頃の更新を予定されているのですか？

○ 浅野部長

今のところ、現在のシステムにつきましては、平成31年度、詳しくいうと32年に入りますけれども、1月か2月くらいに新しいシステムの更新を、そこから稼働したいと考えておりまして、更新の方の内容を今検討している段階でございます。

○ 佐藤会長

多分、結構今運用されているのが古いタイプの仕組みでやられていると思うので、例えばウェブのベースで、要するに参加者は随時登録をし、利用して、基本的にはメッセージのやりとり、メッセージのハードリングだけなので、Webでも基本的にできるはずなので、メンバーをクローズして運用すれば、要するに、図書館だけでなく高校の図書室、あるいは小中学校も含めるときに、柔軟に追加できるようなそういった構成も考えていただければいいんじゃないかなと思うのですが。

○ 館長

貴重なご意見ありがとうございました。

○ 早坂委員

よろしいでしょうか。システム更新って、昨年度でしょうか？一回アナウンスされて、30年度に更新されるというようなお話を伺っていたのですが、延びたのですか？

○ 浅野部長

本来であれば、来年度・30年度からということで当初動き出しをしていたのですが、申し訳ございません。こちらの具体的な更新内容の詰めができなくて、当初の計画よりも1年先延ばしして、もっとより良いものを作っていこうということにしたところでございます。

○ 早坂委員

やはり日進月歩で、毎年新しい仕組みとか、同じ金額でもっとより良いものがどんどん世の中に生まれていると思いますので、是非この一年延びたことを有効に活かして最新のものを。

○ 佐藤会長

いかがでしょうか。

振興基本計画の中の、目標指標という表現をされていますけれども、前回からかなり変更していただいたようですけれども、なかなかでは具体的に5年後どうするかというような見えないところにあるのですけれども、その辺については、おそらくは柔軟に目標・数値指標を一つの例として挙げていて、5年後に評価をするときにこの指標に加えて他のも加えながら評価をしていくというような捉え方をすることによってよろしいんですよね？

○ 浅野部長

はい。一応ここに掲げましたのは、現段階で考えて一番良いのかなというもので掲げてございますけれども、今後やっていく中でもっと良い指標があればそちらの方に変更するということがございますので、その辺は報告にいただければと思います。

○ 早坂委員

細かいところで、29ページです。最終案の29ページに図書館資料整備事業（再掲）とあり、最後の一行なのですが、「多くの利用に耐え、適切な保存が可能となるよう、資料の装備を行う。」という表現なのですけれども、一般的な装備という言葉は、ラベルを貼ったりフィルムコートをかけたりという、補強的な意味に使われることが、装備というのは多いのですが、ここでいう装備というのは何でしょうか。壊れそうな資料を修復するというような、そういう具体的な補修の意味でしょうか？どういう意味で使われているのですか？

○ 石川部長

今ご指摘の一般的な装備ということで、それを施していきますよ、ということでございます。

○ 石川部長

はい、カバーも含めてやっていきますよ、という単に収集するだけではなくて、そういった装備の内容というのも、きちんと進めていきたいということでございます。

○ 早坂委員

なんとなく違和感がある…。整備というほうが幅広いですね。

○ 石川部長

これまで、資料整備事業というような流れで、収集するというだけでは一般の方に分かっていただけてはいたのですが、集めるだけではなくて利用してもらうための形にする、整備というところも意識の欠落みたいなのところもあって少しくまかないものですから、ここもあえて出したということになります。

○ 佐藤会長

早坂委員よろしいですか？

○ 早坂委員

そうですね、本当に装備自体図書館の用語としては、狭い意味で使っているの、突然どうしてこういう言葉が出てくるのかと思ってしまったので、違和感が…私だけでしょうかね。

○ 村上委員

特殊資料の裏打ちするとか、色々そういうことも含めての表現なのでは…。

○ 佐藤会長

ではその点については、よろしいでしょうか。

○ 早坂委員

はい。

○ 佐藤会長

私が前から一個気になっていることが一つありまして、29ページの事業名「図書館和古書複製製作事業」という複製の作成についてなのですが、この中身の「複製製作対象資料について、劣化の進行している資料のデジタルデータを作成し、」というここまではよく分かるんです。ですが、次が『叡智の杜 Web』で公開することにより、広く一般への利活用に供する。」これセットになっているのが、少し理解できなくて。あまりよろしくないのではないかなと思っておりまして、と言いますのは、宮城県図書館にある紙芝居の資料が5,700点ぐらい、日本の中でもあるいは世界の中でも、ここにしか残っていないものがたくさんあるわけですね。著作権の関係で、著作権が不明なので公開ができないのです。ですが、著作権法31条では図書館等における複製で、劣化の進んでいる資料については複製が作成できるはず。ですから、複製はできるけど公開はできないです。そし

て、これをセットで書かれてしまうと、公開できないから複製できなくなるのですよ。ですので、少しそこら辺を配慮していただいたほうが。要するに、図書館等における複製という、劣化を懸念される資料については、複製はできるという31条2項だったと思うのですが、書いてあるはずですよ。その辺微妙なところはあるのですけれども、一度ご確認いただいて、まずは複製、デジタルデータとして保存しないことには、どんどん劣化が進みますから、公開も何もなくなってしまうので、まずは保存計画を立てていただいて、後々の著作権の問題がクリアされたときに公開するような形を取らないと、たぶん原本も含めて非常に残念な話になりかねないな、というふうに懸念しているところなのです。結構注目をしているのは、日本・アメリカの研究者などの、紙芝居を研究している人もいますし、結構注目をしている人はいらっしゃるのですね。

○ 早坂委員

もう一点、これは和古書ではありませんが、斎藤秀三郎の青いインクで書いた英和辞書の自筆稿本が、黄色く変化してしまっています。本当にあのままでは、見えなくなってしまうのではないかと位心配しています。あれは、宮城県の指定された文化財としても貴重なものですし、これも、上の貴重資料保存修復事業というほうに混ぜるべきになるのだろうか、それともまずはデジタル化データ、下の方の和古書の中にまず入れて、公開と保存を分離してとりあえず必ずデジタルデータを作成しておくという方向に、そういうところも含まれるので、和古書という風にくくってしまうとやはり落ちていくものが、紙芝居とか近代資料とかですね、そういった問題もあるのではないかと思います。まずは緊急避難的にとにかくやるということです。

○ 佐藤会長

なかなか公開等がセットにならないと予算は取りにくいと思うのですけれども、何かご検討いただければと思ひまして。

○ 浅野部長

今の点につきましては、ここの表現上デジタルデータの複製の作製と、別途公開できるものは公開という形にはしているのですけれども、その表現上一緒にしてしまった部分がございますので、きちんと整理をさせていただいて、修正をしたいと思ひます。

○ 佐藤会長

よろしくお願いいたします。いかがでしょうか、そのほか何かありますでしょうか。それでは、資料1～4の振興基本計画（最終案）は以上にさせていただきます、続きまして、「平成29年度の利用状況及び平成29年度主要事業実施概要について」事務局から説明願ひます。



○ 石川部長

「平成２９年度の利用状況及び平成２９年度主要事業実施概要について」説明いたします（以下、資料５～６により説明）。

○ 佐藤会長

ただ今の説明について、ご質問・ご意見等ございましたらお伺いいたします。

○ 早坂委員

はい。

○ 佐藤会長

はい。

○ 早坂委員

資料６の３ページ。先ほど複写資料の貸出等・貴重資料の活用のご説明があつて、古書の減少というのはマイクロ資料を利用するという話でしたけれども、マイクロ撮影というのは新たに古書のマイクロ撮影をやってらっしゃるのでしょうか？

○ 石川部長

国文研という研究施設の方との連携で、向こうでマイクロ化したものをこちらでいただくというような形を通して、増やしているところではあります。

○ 早坂委員

実際は、ここの図書館の古書の複製作業というのはデジタルデータ化したものから、和紙への印刷・打ち出しをして、それを製本して、和綴じをして、実際に和古書のような形で手にとってご覧にいただくというのがメインなのですね。そして、それは大変使い易く、また利用者からも大変ご好評いただきました。マイクロ資料というのは見づらい上に、疲れますし、擦過傷ができるとプリントアウトしたものは汚いですし、それから料金もマイクロ資料は一枚…２５円ですか？高いですね。ですから、和紙にプリントアウトしたものは普通にコピーで、１０円でできますので、圧倒的にこちらの方が使い勝手が良いというお話をいただいております。ですので、その国文研のマイクロフィルムというののもかなり昔からやってはいたのですが、新たに今でもそういうことをやっているということですか？

○ 石川部長

継続してやっているものはございます。ただ国文研の方もマイクロ化の方を、マイクロ

フィルムではなくできればデジタルバージョンで進めたいという話がでてきておりますので。

○ 早坂委員

実際使っていると分かるのですが、マイクロフィルムは、画面は見づらいうえ、複写したものは陰影が強く出過ぎて読みにくいのですね。ですから、普通に和古書を和紙に印刷したものの方が遙かに使い易いのです。複製資料の利用を考えるとしたらこちらをメインで考えていただければ、利用者にとっては、より美しいものを見られるのではないかな、と思います。

○ 石川部長

一応マイクロフィルムの利用が割と多かったというようなことは、係から聞いたので、そのように先ほどお話ししましたが、当然デジタル画像のほうをご利用いただいたり、あるいはレプリカとして作られた物、複製資料のほうをご覧いただいたりといった件数も入っておりますので、今いただいたようなご意見をさらに今後も参考に進めてまいりたいと思います。

○ 佐藤会長

その他、いかがでしょうか。それでは、よろしいです？ご質問がないようですので、続きまして、「平成30年度事業実施計画概要について」事務局から説明願います。

○ 石川部長

「平成30年度事業実施計画概要について」説明いたします（以下、資料7により説明）。

○ 佐藤会長

はい、ありがとうございます。ただ今の説明について、ご質問・ご意見等ございましたら伺いいたします。よろしいですか？それでは、ご意見は特にないようですので、以上をもちまして議事を終了いたします。円滑な議事進行にご協力いただきありがとうございます。

（議事終了）

12 その他確認事項

○ 谷津副参事

本日は、お忙しいところご出席いただきありがとうございました。

以上をもちまして、平成29年度第3回宮城県図書館協議会を終了いたします。

本日は，どうもお疲れ様でした。

閉会